



↑ワイエス展のメインヴィジュアル《三日月》の作品を解説している様子

好評開催中のアンドリュー・ワイエス創造への道程（みち）展ですが、1月10日土曜日に記念講演会を開催しました。ところが大変なアクシデントがありました。その舞台裏をちょっとご紹介しましょう。

2日前になって講師のヴィクトリア・ワイエスさん（アンドリュー・ワイエスの孫娘）から、「体調不良で日本へ行くことができない」というメールが入りました。おー！担当者は真っ青！すぐに善後策を館内で協議しました。

まず、講演会そのものを開催するか否か、するとしたらどのように行うか？その場合は聴講者にどう知らせるか？などいろいろと問題点などを検討しました。結論は、直前に送られてきていた講演会の原稿を元に担当学芸員が代読する方式で、とにかく予定講師でなくても講演会を開くことにしたのです。その場合にもまだ問題がありました。200人近くの講演会聴講希望者に対して、状況報告をしなくてはなりません。当日出勤していた職員で手分けして、一斉に電話に飛びついたのでした。

さらに講演会では原稿を代読するだけでは、内容が通じません。それは、作品写真を見せながら話すことを前提とした原稿だからです。ヴィクトリアさんはコンピュータを持ってきてパワーポイントで、

見せる予定だったのです。エクスプレスでCDを送ると言われたのですが、当然間に合いそうにもありません。そこで、そのデータをメールで送ってもらうことにしました。が、またもや問題発生！職場で使っているコンピュータのメールサーバは大きすぎるファイルは受け取れない！ヴィクトリアさんにファイルを細かく分割してもらい、職場ではなく、担当者の個人メールアドレスにも送ってもらうことで解決を図りました。ただ、受け取ったものをもう一度組み立てるのにさらに手間がかかりました。これらのやり取りは、緊急のこともあり、アメリカの昼つまり、こちらの深夜から未明にかけておこないました。

一番大変だったのは、原稿の翻訳でした。前日に学芸員5人に手分けをして、翻訳を始めました。その時点では画像が届いていなくて、説明をするのにも画像がないとよくわからないものもあり、手探りのようにして訳した部分もありました。



↑ピンチヒッターとして急遽演壇に立ちました！

そして当日、なんと講演会開始15分前まで、眠い目をこすりながら、手分けした翻訳を、とりまとめて訂正したり、確認したりして本番を迎えました。本当に冷や汗ものでしたが、なんとか間に合わせることができ、多くの方に聞いていただくことができました。

講演会の内容は、担当者も見たことない作品も紹介できて、身近にいる人ならではの内容でした。美しいヴィクトリアさんには比べるべくもありませんが、なんとか合格点をいただけたのではないでしょ

うか。

(ST)